

日本人の心を今、呼び覚まそう

蘇生日本

新緑号

『蘇れ 日本人の会』

〒244-0805 神奈川県
横浜市戸塚区川上町574
電話 045-824-5965
FAX 045-824-5973

発行人 藤原 大士
編集人 鈴木 純市

日本人よ 精神的独立を果たせ
サンフランシスコ講和条約を独立記念の日に



日本人は何を失ったのか？

今の若い人は、昭和二十年八月十五日の終戦記念日は知っていても、サンフランシスコ講和条約のことを知らない人がたくさんいます。

昭和二十年の終戦から七年の間、日本はGHQに統治され、その間にもろもろの検閲と言論統制を強いられ、憲法を始め戦後の日本を形成する諸制度が作られてしまった。

今、教育の荒廃をはじめ、

さまざまな問題が噴出してはいるが、その大元は日本人が精神的基盤を失い、無国籍化しているからではないか。

戦後七年間、日本は独立国ではなかった。憲法も教育基本法も、国を動かした次の時代を作る国の要でありながら、GHQの手で作られ、私達は今もその規制の中で暮らしている。憲法はGHQが六日間で原案を作り上げたものだ。

今「首相の靖国神社参拝は憲法違反か」とか「自衛隊は違憲だ」と騒いでいるが、その大元はどこから来ているのか。その時の憲法をはじめ日本の骨格となる制度がどういう状態で作られたのか。

本来ならばサンフランシスコ講和条約が締結され、独立を回復した時点で、日本人に合った形の憲法なり制度に作り直さなければならぬのにそれをしないまま五十数年経ってしまっている。少なくともアメリカの占領政策は、日本人の精神的基盤を骨抜きに

しようと考えて進められたものであるということを前提に、その蘇りを図らなければならぬのだ。

教育基本法が作られた時には教育勅語は残るという前提であった。精神的な基盤は教育勅語があるから、規制としてのものを作ればよいというのが教育基本法だ。ところがその後、教育勅語も廃止され、日本の教育の中に精神的な基盤になるものが全くないまま進められてきたところに、現代の教育の荒廃の元凶があるのだ。

「公より私、忠孝より平等、規律よりも自由」どれも一見いいことのように見える。

しかしこれが教育の場に入ったら誤りなのだ。私(個人)や、自由は放っておいても大事だし、自然に身につく。

しかし公や忠孝・規律は学び、訓練し磨いていかなければ身につくにくいものなのだ。何を学ぶのか、何を身につけさせるのかの基本がなく、自由放任、何をしてもいい。教師も生徒も平等などと考えるから、生徒も「先公」などとあなどり、教師もまた生徒と友達感覚でつきあうことになる。教える立ち場と教わる立場は厳然と区別されて然るべきだ。そこには威厳と尊敬の心、慈愛と育成の心がなければならぬのだ。

日本が独立国家としての主権を回復するまでの流れ

- S20.8.15 ポツダム宣言受諾発表
- S20.9.2 戦艦ミズーリ上で停戦協定調印
国際条約上「停戦」状態となる
米軍による「軍事占領」開始
日本が国家としての主権を失う
- S21.5.3 極東国際軍事裁判開始
- S22.5.3 日本国憲法の実施
- S22.3.31 教育基本法の制定
- S23.6.19 教育勅語の失効
- S24.10.1 中華人民共和国成立
- S25.6.25 朝鮮戦争勃発
- S26.9.8 サンフランシスコ講和条約調印
- S27.4.28 同上発効により占領が終結
日本が国家としての主権を回復

学びとは自らを高め磨くことで、墮落の道を歩ませるためのものではない。

外来のものを一旦受け入れ、そしてふるいにかけ、さらにそれを改良して、独自の文化に作り上げていくという日本民族の創造性は姿を消し、外国のものは何でも良いのだと、自国に合うかどうかの区別もせず盲従している。

教育の問題について、今は日教組だけを皆叩いているが、なぜ日教組はそうなったのかと言うと、戦後東大の教授や助教授がそう言うのだから間違いはないのだからということにその元があるのです。

精神的なものを抜いて制度としてするから、その制度だったら、今言った東大の先生が言う方向へ向いて行けばいいのだからというのが日教組がどんどんどんどん左翼化していった理由であらう。

日本の教育を誤った方向に導いた日教組の罪は重い、むしろ独立の回復と同時に、憲法や教育基本法の改正に着手すべきを、五十年以上も放置した政治家の無策にこそ大罪があり、また当時のGHQにおもねり日本の精神的基盤をずたずたにした学者もマスコミにも重大な責任がある。

なぜそれを声高にいえないのか。それをした横田喜三郎氏も海後宗臣氏も東大の教授・助教授だったからである。現在に至るまで、日本の閣僚や官僚、エリートと呼ばれ日本の骨格を成してきた人達は皆東大卒が主流だったからだ。先輩の悪口は言いにくい、先輩の罪は暴けない。しかしそれが腐敗した日本を作った大本なのだ。



講演中の藤原会長 … 2663 年 10 月 10 日 会場にて

日本人を蘇らせるには

日本人を蘇らせるには、その占領政策というものを根本的に見直して、何が日本人の精神的基盤であったのか、民族としてこのままでは何を失っていくのかを考えて正していく必要がある。

今のままでは、若者も「日本人なんか生まれるのではなかった」と言われるような日本ではない。本日の日本は、日本人も世界に誇れるすばらしいものを持っているのだ。今はそれが封印されているだけだ。

いつたい日本の歴史、民族の大切な何を書き換えられたのか。子孫に残す日本、それは私達が生きてきた足跡そのものだ。そして若い人達にとつても、自分達がこれから作り上げる歴史なのだということを知ってほしい。過去は変えられない。しかし、現在と未来は自分達の情熱と力で変えることができるのだ。

だから、勇気と希望を持って前進してもらいたい。

正すべきことは何か
しかしそのためには、正しい歴史観に立ち、正すべきことが何かをまず知らなければならぬ。

GHQの占領政策の大きな柱は、精神構造を骨抜きにすることだと述べたが、そのやり玉にあがったのが、神道の廃止、教育勅語の廃止だ。教育勅語と言うだけで目をむく人も多いが、その内容は「父母を敬え、兄弟仲良くせよ、

友を大切にせよ、夫婦相和し。」だ。

いつたいこれのどこが悪いのか。それを忘れた結果、この反対の事件が毎日報道されるようになったのだ。親を金属バットで殺す。いじめで子供を自殺にまで追い込む。保険金殺人など。いとまがない。

これは、命の源である父母に感謝をせよ、自分以外の人の存在を認め、受け入れ、和していく、それが大自然の摂理であり、人の道だ。人としてなくてはならないものだ。また「一旦緩急あれば義勇公に奉じ」とあるのも、緊急事態発生時には、どうするかという心構えを説いたものだ。それが国の首相にも閣僚にも無いから、イラクの人質事件についても、かつてのペルー大使館人質事件にしても、適切な対応が取れなかったり、事態の收拾に間に合わなかったりするのではないか。

またかつてGHQが、神道指令を発するときには、はじめ伊勢神宮も靖国神社も焼き払おうとしていた。それが免れたいきさつは別の機会に述べるが、そのくらい神道は、日本人の精神の骨格になっていたのだ。

日本人は昔から、朝日に手を合わせていた。そしてよく「お天道様が見ている」「悪いことをするとお天道様に叱られる」と子供を躾けたものだ。「人が見ていないところでも、天が見ているよ。恥ずかしいことをしてはいけないよ。」今はそうした教えが根づいていないから、人の見ていない家の中で、いと簡単に家庭内暴力や虐待死などが起きてしまつたのだ。

一日の初めに朝日に手を合わせて感謝をする。そして実りの季節にはその年の収穫に感謝して初穂をお供えする。それが日本神道の基本だ。だからこそ瑞穂の国と言い、日本の最高神が、天照大神様で太陽の神様であるということも、よくかみ締めてほしい。

その神道と日本の神話を教科書から抹殺した。

神話が正しいか正しくないかというよりも、その国の先祖が何を目指したのか、それが神話として残されたのだ。いわば日本民族の心の拠り所なのだ。それを汲み取るうとしない民族は滅びる。

いずれの国も自分の信ずる宗教を大切にしている。しかし日本の神道は宗教ではない。

宗教のように教える者と教える材料が無ければならないというものではないのだ。大自然の声、天の理であり、理屈によって自分が納得したらとか、理屈によって物事を説き伏せるようなものではない。もっと崇高な大自然そのものだ。天の理であり大自然の真理そのものである。日本人は理屈抜きにそれを受け取れる感性を持っているのだ。

この点は理屈に馴れた西洋人には絶対にわからない部分だ。いま右脳、左脳とかアルファ波、ベータ波、ひらめき、大自然の揺らぎなどと言っているが、こうしたものは日本人には理屈無しに民族的に持っているものだ。

戦後の神道指令によって、神道が今日本人の心から抜け落ちていくが、ここを取り戻すことは、日本人の心を取り戻すことだ。決して宗教ではない。神社が、宗教学法に入っているから、紛らわしくいろいろの問題に引っかかるのだ。本当は神社法人とか神道法人に変えて、はっきりと宗教とは区別をしなければならぬのだ。

その国の建国を学ばない国など無い。その国の誇りを伝

えない国は無い。不思議なことに外国が授業で日本の神話を学ばせているという。日本人よりも外国人の方が、そのすばらしさに気がついていないのかも知れない。

独立記念の日

今の若い人は、日本がアメリカと戦争をしたことさえ知らない。まして、戦後七年間アメリカに占領統治されたことなど、さらさら知る由もない。しかしその間に作られたものが基盤になって、今の日本人の精神構造が出来上がっているのだ。

太平洋戦争直後に、占領軍としてのGHQは、日本人の精神的根幹をなす神道をつぶすために「神道指令」を出し、かつ日本の歴史と伝統を破壊して日本人の精神を徹底的に改造しようとしたことも知らず、ただ今流されている報道のみを鵜呑みにしてしまつた。

残念ながら日本人の中にも日本の誇りをどぶに捨て、日本を外国に売り渡そうというエリート、文化人がたくさんいる。それがマスコミに流れ、その言葉のままに、子供達は自分の民族と親や先祖を嫌っていく。これではあまり

に情けないことではないか。日本の誇りを守るのは、一人の日本人だ。

そして日本人は、もつと日本と日本人のすばらしさに目覚めるべきだ。八月十五日の終戦記念日よりも、むしろ四月二十八日のサンフランシスコ講和条約発効の日こそ日本再生の日として大切にすべきだ。そこで初めて独立国としての主権を回復した日だからだ。

しかし、それは単に独立記念日あるいは独立回復記念日として、単に祝日を一日増やそうというのではなく、真に日本人として目覚め、欧米に隷属追従することから精神的にも独立しようとするための重要な日しようという意味だ。

日本人はなぜこの日を、日本独立の日としてもつと考えないのか。いずれの国においても、独立記念日は、国家の記念すべき日として、国民の祝日に相当する行事をしているが、日本人はそういつたことを全くしていない。私は、この四月二十八日こそ、独立記念日として重視すべき日であると考える。

なぜこの点を強調するかと言つと、サンフランシスコ講和条約によって、形の上では日本国が独立したことになるが、精神的にはGHQにおもねった形のまま現在に至っており、報道機関を始め政治家に至るまで、日本国民全体が、未だに精神的独立をしていないからである。

これでは外国の言いなりになり、自分を持たずに何でも右へならえする姿勢はまさにあやつり人形で、世界中の物笑いの元だ。そして外国に押し付けられた憲法を見直すことも改正することもせず、後生大事に抱え込み、それを金科玉条の如く、日本人の精神を蝕む攻撃材料にしている。

本来、憲法は国民が幸せに暮らす為のものだ。自国民同士で精神破壊をしているなど物笑い以外の何だというのだ。精神的独立をしないまま、戦後五十八年間を経てきている。もつこの辺りで精神的にも独立国になってほしい。

日本人は昔から、外来のものでも受け入れ、自分達に合うように改良してきた。全て鵜呑みにはしていないのである。戦後の日本人はこの精神を忘れていないか。

コンピューターピアを目指し、限り無き可能への挑戦



ハミーズシステム株式会社

代表取締役 河 治 弘

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-10 第一西脇ビル5F

TEL 03-5350-3577(代) FAX 03-5350-3795

<http://www.hermes-system.co.jp>

『蘇れ日本人の会』法人会員

創業20年、優れたIT技術開発(各種コンピュータシステム)の実績を誇る企業です。
益々進展するIT技術開発の先取りは事業の要です・・・お気軽にお問い合わせ下さいませ。

『輝く日本にするために！』 教育を熱く語る！

二月十四日（土）都内セシオン杉並で開催されましたパネルディスカッション『輝く日本にするために！』に藤原大士会長がご出演なされ、紙面の都合により抜粋となりますが、輝く日本にするための答えを感じて下さい。

司会（杉並文化村 渡辺直紀様）
最初に今の日本の教育についてお話を頂きたいと思えます。まず渡部先生お願いします。

若者に史実と自信を

渡部先生 日本の若い人達に、自信とかプライドというものが欠けているのが現実ですね。「日本は悪いことをした、侵略戦争をした犯罪国家である」ということを教えられ、精神の傷になっていく気がするんですが、では日本を犯罪国家とか侵略国家と決めたのは何か。それは東京国際裁判しかない。

しかしこれは国際法には何ら関係がなく、マッカーサーの占領政策とマッカーサーの権威で始まったものなんです。

ところが、朝鮮戦争が始まった途端にマッカーサーもアメリカも「アツ」と気が付いた。日本が東京裁判で言ったことは全部合っていると。そこで、アメリカは少なくとも二十五年間日本を占領する計画だったけれども、講和条約を結ぼうとなつて翌年締結したのです。

それから、マッカーサーは上院の軍事外交委員会で「日本が戦争に入ったのは、主として自衛の為であった。日本は近代国家になる為の産業の原料を何も持っていないかった。その材料は全部東南アジアにあった。それを我々は送らないようにした。だから、この戦争に入つたのは資源の為の自衛の為だった。だから日本は侵略戦争ではない」と公に証言をしたのです。日本を犯罪国家と決めたのは東京裁判しかありません。東京裁判の根拠はマッカーサー司令部しかありません。そのマッカーサーは公の場で取り消しました。

そして、戦後七年間は日本に国家として主権がない戦時体制だった。主権がない間に作られた法律は、独立した途端に全部無効になる筈です。一つとして日本人だけで作ったものはありません。全部占領軍の民政官・補佐官・参政官、占領軍だ

けで出来たものです。

ですから、憲法も改正なんか要らない。七年間の法律は全部無効です。ただ善いものは遣せばいいけれども、それを日本の政治家はやっていけないのです。今の若い日本人達に本當の事を教えなければいけない。

司会 有難うございました。次に「安全・安心を固め、元氣・活力のある杉並区を作ろう」という山田区長お願いします。



会場風景

人を形作るものの継承を

山田区長 大学生の時、会田雄二という先生がお話をされました。「君らが社会に巣立っていく時代は大変心配である。何かかという、君らは人間をきちっと形作る思想力の基本が

なされていない。それは占領軍によつて、全て消し去られてしまった。一つは宗教であり、一つは道徳の教育であり、そして三つめは日本の歴史についての正しい教育である。」

確か現在は宗教・道徳・歴史について日本の伝統が完全に消し去られてしまっています。やはり継承が必要ではないか。そういうことが治安とか元氣・活力に繋がっていく。

拉致事件被害者の曾我ひとみさんが帰ってこられた時に詩を詠みましたよね。「山、川・自分を待っていてくれる」と。私はあれを聞いて背筋がピンとしました。人が生きていく上で故郷は大事なのだと。

故郷というのは山や川だけではなくて、そこにずっと人間が築いてきた風習・文化というものに息づかいがある。そういう意味で簡明な詩の中に人間の大事な要素を感じた訳です。

政策によつて教育全体の中でも一番根本的な伝えるべきことが消し去られたとしても、やはり良いものを掘り起こすことが必要だと思います。

司会 次に『蘇れ日本人の会』の藤原会長にその趣旨を含めお話し頂きたいと思えます。

何の為に学ぶのか 心の奥底を育てよう

藤原会長 昨年七月『蘇れ日本人の会』を立ち上げさせて頂きました。日本民族は本来、誠実で、勤勉で、寛容で、素晴らしい民族ですけれども、現在は色々な面で低迷しているように思えます。

渡部先生が仰られたように日本人が悪いことをしたとばかり報道・教育をし、日本人の良い面を全然見ようとしていないけれども、本當のよさを日本人でいながら気付いていないのではないかと思います。

二十一世紀は心の時代といわれます。まさにその心の問題、精神教育、もっと奥深くの魂の問題だと思えます。こうしたことこそが日本人が先鞭をつけて世界に打ち出していくべきであると思つたのです。人の思いというものは、育てなければなかなか変わりません。

学校教育も何のために学ぶのかが置き去りにされて、知識を覚えて忘れる勉強方法をとっていると思えます。考える力とか身につく勉強方法、学んだことを直ちに実践し社会に役に立つ勉強方法をして欲しい。

何の為に学ぶのかということとは、裏返しをすると生徒さんは一体何になり、どういう事を将来したいのかが抜けている。

福岡のある高校で生徒さんに「何になりたいか」を出させ、看護師さんになりたい方は病院にかけ、翌週発表するという時間を設けた。「合格率が落ちるのではないか」と思っていたところ、逆に三十%の伸びを見せたということです。

ただ「大学を受けたい」というだけで終わった時は大学受験が目的でしたけれども、「将来こういう職業につきたい、その為にどういう大学に行つて」という勉強をすればよいのか」に気が付いて、自分から自主的・積極的に勉強をする。

人は何の為に生まれてきて何をなすべきかに目を向けてその上での教育でないと本物にはならないと思います。

このことは中学生なら高校進学、高校生なら大学、大学生は就職、社会人になったら結婚、一つずつが目的になっていて、目的を達成するとやるべきことがない。目的と手段方法、あるいは目的達成のための過程とを取り違えていると思います。

司会 渡部先生、先程のような歴史認識の上で誇りを取りもどすために何をすればよいか教えて頂けますか。



渡部 昇一 教授
上智大学 名誉教授

誇りを取り戻す為に

渡部先生 三つあると思います。一つは七年前占領されたことを知らない世代ができています。日本は占領され主権がなかった。国旗も国歌も歌えず大使館も作れず、自分だけで法律も作れなかったことを皆に覚えてもらわなくてはいいけない。

二つ目は昭和二十七年四月二十八日に講和条約が発効して日本は独立しました。だから『独立回復記念日』を作らなくてはいいけないのです。

三番目にマッカーサーの一代記を放送する。いかに日本にひどい負け方をし、そして日本に来た時、いかに傲慢に日本人を野蛮人みたいに考えていたか。そしてそれが段々と変わってくる。

これで日本が侵略国家であったと教えてきた教育関係者の根拠が一遍に全て崩れます。そして、七年前にできた法律は本質的に全部無効ですから全部作り直ししよう。こういうことで完全に失われた日本を取り戻すことは出来ると思うのです。

司会 次に山田区長に人間の形作りということに向けて語って頂きたいのですが。



山田 宏 区長
杉並区

現場に主導性ある制度へ

山田区長 杉並区には区立小学校が四十四、中学が二十三あるので、先生の人事権は区にも区の教育委員会にもない。区には具申権はあるけれど、決定するのは都の教育委員会なのです。私もいい先生、この先生を欲しいと教育委員会へ希望しても、中々実現出来ない。そういう体制に今はなっているのです。

しかし、学校の運営を学校長

等も主体的に関わる形でないのと、本当に責任ある教育というのはやりにくい。

それと毎年卒業式に行っても「仰げば尊し」を歌わない。「先生と生徒は平等なんだ」と言って教壇も無くなっている。

こうした現実の中、立派な教育者が様々な形で教育に携わるためにどうすればよいか。その方が立派だというのは、習う人達や保護者、地域の人達が「あの先生は立派だ」と自然に思うものです。

そういう地域や現場に主体性ある教育の仕組みであって欲しいと私は思っております。

司会 藤原会長に『教育勅語』についてのお考えをお聞かせ願いたいのですが。

藤原会長 私自身は究極的には人徳者の養成こそが急務であると同時に、本来の教育の目的であると思っております。まず、日本人の特性としての人の為に尽くす人になって欲しい。

今は『教育勅語』と聞くだけで、アレルギー反応を示す人もいますが、良い物は良い、そうでない部分はどこをどう直せば良いのかと見直して頂きた

い。教育勅語は、全体としても良い教育指針であると思っています。

『父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信し』、お父さんお母さんに孝行しなさい、兄弟・友達・夫婦、皆、仲良くしなさいという事です。

逆に今はその当然のことが当然でない時代になってしまっている。自由主義を履き違えて、言いたいことを言い、大事な友達も受験戦争の敵にしてしまっている。肝心の「和の精神」を忘れていていると思います。

『一旦緩急あれば義勇公に奉じ』本来は国家が外国から侵略されたような時には公に尽くしなさいという意味ですが、『父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し』と合わせて考えて頂くのと更に生きてくると思います。

現在、自殺者が年間三万人を超え、リストラによるものも多いのですが、そういう時こそお母さんが「今までお父さんが頑張ってくれたのだから、家族皆で力を合わせて頑張つて行こうね」と子供さん達に言うって乗りに越えて行く。家族に、また会社に置きかえたらどうか。日本人はお互いに助け合うことと出来る素晴らしい民族であ

るといふ事をもう一度思い出して頂きたい。『教育勅語』も断片的にだけではなく、全体のその精神を受け取って頂くと良いと思います。

司会 有難うございました。それではテーマの「輝く日本にするために」おまとめ頂ければありがたいと思います。

渡部先生 一点あります。教育勅語は占領軍も廃止する気はありませんでした。だから教育基本法は道徳に殆ど触れていないのですが、後に教育勅語が議会で廃止されてしまい、それで二輪車が一輪車になってしまった。それが今の教育における道徳問題の難しい所です。

第二点、『一旦緩急あれば義勇公に奉ず』と、アメリカは戦後、日本からそういう気迫を全部取ろうと努力した訳です。しかし、アメリカはどうか。アメリカの教育の基本は、アメリカ国旗に対する忠誠、アメリカという国に対する忠誠、これを叩き込む事がアメリカの初等教育の一番の眼目なのです。

だから教室にまず国旗が掲げてあり、幼稚園の時から毎朝忠誠の誓いを言わせるのです。「私は忠誠を誓います。アメリカの国旗と、国が代表する共和

国と、神の元において別れ得ざる一つの国家、全ての人に正義と自由を与える国家に対して、忠誠を誓います」毎朝です。

国に何かあった時、国の為に死んでもいい。国に害する者はどんなに叩き潰してもよいという人を右翼というならば、アメリカの大人の九十四%は右翼です。九月十一日のテロ事件の時、アメリカの大人の九十四%がテロリストを隠している所はどの国でも皆爆撃してよいという事に賛成したので、この人達はいつでも戦争に行くつもりなのです。

この二点を付け加えたいと思います。

熱意ある方が頑張れる地域を

山田区長 熱意ある教育者が、地域の中で頑張れるようにしたい。そういう人物を一番知っているのは子供たち、地域の大人、関係者です。皆が頑張れる学校が色々な所に出来て欲しいと思います。

また重要なのは家族だと思っています。家族が分壊していくことに注意しなくてはならない。今幼児教育が段々傷ついてきている。親のための保育所なのか、子供のための預かり所なのか。

茨城県警青少年課によりますと、非行少年の家では鍋ものを食べない。ジューズばかり飲んでいてという。皆で鍋を囲むことが子供に家族にとって大事だと統計的に出ています。

何でも楽に、スピードディーにストレートにする環境をどんどん整えていくことが、本当に良いか疑問に思っております。

私たちはもう一度考え直していく必要があると思います。

司会 有難うございました。最後に藤原会長お願いします。



藤原 大士 会長

先生は聖職者たれ
生徒に基礎と学ぶ喜びを！

藤原会長 教育は人生の根幹をなすものですから、今年いっぱいをかけて教育シリーズで毎月講演会をしておりますので、「ご家庭で実践できるように、そちらも聞いて頂ければと思います。

問題点として、大学で専門科目を勉強しながら教育課程を取れば先生の資格をもらえるという点と、そして、私は先生の教え方の問題ではないかと大変厳しい目で見えております。

生徒さんの全員が百点満点をとれる教え方をしているのか。指導要綱にそって話して終わりということだったら文部科学省は、ビデオを全国に配って行けばよいし、ビデオなら生徒さんも何回でも見られる。

先生は単なるサラリーマンとは違うのだ。やはり聖職者であってほしい。

相当以前ですけれども、ある中学三年生の方が十一月半ばになつてから、学校で「あなたはいく高校がありませんよ」と言われたというので、お母さんと一緒に私を訪ねてこられました。

そして、子供さんが参考書をいっぱい抱えて参りましたけれども、私は「そういうたものは一切いらぬよ。その代わり一年生からの教科書を全部持つていらつしやい」と言つて、全部最初から本人が解けるところまで復習して頂きました。詰まったところから、何故そこで詰まったのかをお教えした

のです。そして工業高校をまさに薄氷を踏む思いで合格しました。先生も「よく受かったな」と驚かれ、お母さんは本当に泣きの涙でお礼にこられました。

それから三年、その生徒さんはその高校を首席で卒業し、総代の挨拶をし、現役で東京大学を受かっていました。これは実例です。その方は東大卒業後も研究室に残られ、東大の研究所に勤めておられます。

もし、その生徒さんの能力がないのであれば、私がどんなに教えても、こういう結果は起こらなかった筈です。基礎の学び方を身に付けて、学ぶ喜びを知つたからです。

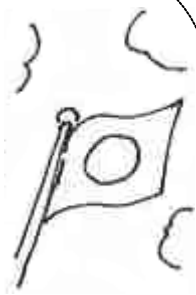
学びは真似びであり、親の背を見て育つと共に先生の姿を見て学ぶのです。

先生が受け持った生徒さんの一生を託されているのだという思いにかられ、徹夜をしても本当に生徒の資質を伸ばし、生徒の人生がかかっているのだという思いで教えて下されば、今の学校教育はおおいに変わるであろうと思います。

司会 今日の本音で真正面から本物の論議を語って頂きました。誠に有難うございました。

活動通信

当会本部や各地域の皆様は活動などを紹介するページです。皆様からのお便り・日本人の心呼び覚ます体験談など会員交流の場にしたいたいと思っております。さっそく愛媛県の会員の方よりお寄せいただきました子供さんの詩をご紹介させていただきます。



こっきは 砂田 正道

こっきは、いつも日本を見ている。そして、空をすいすいと、気持ちよさそうにとんでいる。そして、いつもみんなを見守っている。いつもみんなに上げられて、こっきは、毎日、毎日、うれしそう。

小学四年 国語の学習
つばやきを言葉により

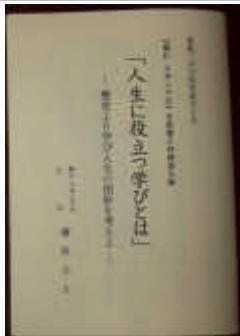
当会設立発起人 国土交通省 若林常次様のご活躍を地元紙が特集！

当会の設立発起人であり、また十年来藤原会長を師と仰ぎ、慕っておられます若林常次様のご活躍が平成十六年三月二十七日の「紀伊民報」紙に紹介されました。国土交通省・串本国道維持出張所の所長として、地域全体、住民の方々を心から思うお人柄やお仕事振りの素晴らしさを

4月10日 首都圏月例講演会の内容が冊子化されました

朗報！！

平成16年4月10日飯田橋レインボービルにて開催いたしました『人生に役立つ学びとは』の講演内容が小冊子化されました。



遠方にお住まいの皆様にもぜひ講演会の内容を感じて頂きたい、教育は学校の中だけのものではなく政治にも経済にもお役立て頂きたいと願い作成いたしました。

会員の方には1部ずつ差し上げております。また会のお知らせに配布させていただきます。その際には実費+お志のご協力をお願いしております)ぜひご活用下さい！

A5版48頁です。

頒布ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

ちよと目 40 住民本意の道づくり

庶民派所長の4年間

若林 常次さん(49)

国土交通省串本国道維持出張所

近畿地方整備局の中 み町 串本町の国道約 43kmが担当だった。とちよと目とびしそ 離れた事務所のつが「一人に任せて仕事をうに笑う。4年の勤務 串本維持出張所、すさぎる出張所は居心地 する。4月に異動す

「国がいくら予算をつけて工事しても、その住民が多かった。」

「国道の維持管理に 住民が果たす役割は大 きい」と、住民への意 口を開いてきた。その ため、一般にはなじみ のない公的機関にもか かわらず、気軽に訪ね る住民が多かった。

(注経記者)

出身は福井県。すっかり串本人になっ た。4月からは兵庫県の豊岡河川国道 事務所へ

赴任して間もなく着 手した串本町の上浦海 岸沿いの砂防フェンス 事業。強風と大量の飛 砂に悩まされてきた付 近住民や浜に上陸する ウミガメを保護する古 老たちは「話を聞いて くれ、何をどうすれば 状況が良くなるのかを 一緒に考えてくれた」と喜んだ。

事故の多い橋杭岩 辺の道路整備など、管 轄外の仕事で橋渡し役 をすることも多かつ たら、道づくりを通して に密着し、地域協力も 得ながら考えるべきも の。道路の維持管理に 残った課題は高齢者 からの逃避路の整備な だ。どこかにつなげてい くという。

ボランティアスタッフ募集!

『蘇れ 日本人の会』ではスタッフを募集しています。人のために力を出し、精一杯の人生を生きたいという方、ぜひご連絡下さい。



軌道にのるまでは交通費程度の実費のみで参画頂く形になりますが、明日の日本と世界のために、未来の子供達のためにとご尽力くださる方! まずはご連絡ください。

電話・ファックス・メール、何でも可です。本部事務局までお問い合わせください。

場所 横浜市東戸塚

内容 名簿管理・各種発送・講演会準備など

会報編集・ビデオ編集など、なるべくパソコン操作の出来る方

広報

心の苗木運動 のお知らせ

新春の集いで藤原会長が唱えた「心の苗木を植える」ため、この会報をより多くの方に紹介頂きたいと思っております。

ご協力下さる方には必要部数をお送りします。また「心の苗木基金」を設けました。会報や講演会を充実させる等、日本の為に使わせて頂きます。ご支援の程よろしく願います。

「心の苗木基金」へは郵便振替口座（口座番号 002103 口座記号 37370）加入者名 蘇れ日本人の会です。通信欄に「心の苗木基金」と書いてお振込み下さい。

協賛を募集しております

3頁に本誌初の協賛広告を頂きました。ハミーズシステム様ありがとうございます。次号では暑中見舞の名刺サイズ広告も掲載予定（一枠三千元）です。ぜひご協賛下さい。編集部にて受け付けております。

ビデオシリーズのご紹介 講演会がビデオで見られます！

収録内容

基本シリーズ

- 『今、変革の時』
- 『首相の発言と国のゆくえ』

教育シリーズ

- 『教育は育てることに本意あり』
- 『心の荒廃を防ぐには』
- 『素質と環境が人を伸ばす』
- 『言葉は民族の誇り！』

特別編

- 『蘇生日本への提唱』（1）
- 『輝く日本にするために！』（1）

価格は 1は8,000円 会員5,000円他は5,000円 会員3,500円です。
お求めは下記のいずれかの方法で
・事務局にご連絡（電話・FAX・メール）を頂く
・以下に代金をお振込み頂く
口座番号 00210-3 口座記号 37370
加入者名 蘇れ日本人の会

感謝！

前号をご覧になった岡山県在住の会員の方が夜行バスで駆けつけて下さいました。広告代理店勤務の技能と経験を活かし右上の様なポスター等を作成下さり、現在もメールを活用してご協力下さっています。ありがとうございます。

首都圏月例講演会のご案内 次回は6月12日です



藤原 大士 先生

教育シリーズ

教育は未来を作る要

第6弾

講演テーマ

人は皆、天才

日本人の大きい可能性を掘り起こそう。
宝の山は無尽蔵。
受験・就職、自分から進んで行ったものはあるか。

- ◇嫌々行った事から芽生えるものは小さい
- ◇人には限らない可能性と力がある
- ◇置き忘れたものを発掘する
- ◇触手を伸ばそう

日時 平成16年 6月12日(土) 午後1時30分～3時30分

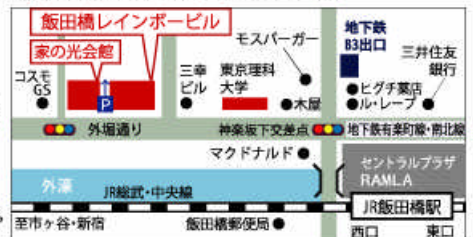
10分前には会場にお入りいただきますようお願い致します。

場所 飯田橋レインボービル D会議室
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11番 電話:03-3260-4791

交通 JR飯田橋西口または、
地下鉄有楽町線・東西線・
南北線飯田橋
神楽坂B3出口より徒歩5分

会費 当日券 3,000円
会員 2,000円

◎前売りチケットも販売しております。
◎当日ご入会で会員価格となります。



教育シリーズ 講演会 今後の予定	7月10日(土)	能力の伸ばし方・活かし方	飯田橋レインボービルD会議室
	8月14日(土)	「らしく」生きる	家の光会館 セミナールーム
	9月11日(土)	考える力を伸ばす	
	10月 9日(土)	今の教育制度でいいのか？	飯田橋レインボービルD会議室
	11月13日(土)	モデル校を作り、なすべきこと	

会 員
募 集

入会金は不要です ・ ・ 年会費は何口でも受け付けております ・ ・

年会費 個人会員・法人会員 1口 10,000円

入会申し込み：お電話・FAXでお問い合わせください。入会申込書をお届け致します。

日本人の心を今、呼び覚まそう
蘇れ 日本人の会

〒244-0805 神奈川県横浜市戸塚区川上町574番地
電話 045-824-5965 FAX 045-824-5973
ホームページ <http://www.loseinippon.org>
メール info@loseinippon.org